

## ドイツ語（初級 A） 第 8 回 前置詞（前半）

範囲：教科書第 5 課 A 前半（S. 22-24）

### 《今回の基本例文》

20. Er kommt mit seinem Freund aus dem Haus. (CD26-1)

彼は友人と家から出てくる。

[3 格支配の前置詞]

21. Für seine Freundin tut er alles. (CD27-3)

ガールフレンドのためなら、彼は何でもする。

[4 格支配の前置詞、(定冠詞型 aller)]

22. Der Schüler legt das Heft auf den Tisch. (CD29-4)

その生徒はノートを机のうえに置く。

[3・4 格支配の前置詞の 4 格用法]

23. Jetzt liegt das Heft auf dem Tisch. (CD29-4)

いま、そのノートは机のうえにある。

[3・4 格支配の前置詞の 3 格用法]

## I 前置詞（第 1 部）：3 格支配、4 格支配、3・4 格支配

### A. 前置詞 (S. 22)

#### ■ ドイツ語の前置詞の総論

ある前置詞の次には必ず **n 格** の名詞要素が来る

= **n 格支配の前置詞**

◇ ドイツ語の前置詞の特徴は、そのあとに来る名詞や代名詞が特定の格でなければならないことである。この点が英語とまったく異なる。ある前置詞の次に来る名詞や代名詞が **n 格** でなければならないとき、**n 格支配の前置詞** と呼ぶ。

\* 前置詞としてはすでにこれまで、in や aus や nach が登場している（教科書 S. 8-9、S. 15 など）。これらも実は格支配があった（aus と nach は 3 格支配、in は 3・4 格支配の 3 格と結ぶ用法、それぞれここで学ぶ）のだが、冠詞のない固有名詞のためそれが明示されていなかった。

◇ 前置詞には、**2 格支配**、**3 格支配**、**4 格支配**、**3・4 格支配** の 4 種類がある。

・ 2 格支配／3 格支配／4 格支配：その次に 2 格／3 格／4 格が来る前置詞。

\* 2 格支配の解説は次回に回す。

・ 3・4 格支配：その次に 3 格もしくは 4 格が来る前置詞。次が 3 格のときと 4 格のときとで意味が異なることに注意（後述）。

◇ 前置詞の意味は複雑で、教科書に書いてある日本語とも英語の前置詞とも必ずしも一致しないが、現時点では取り敢えずこの通りに理解していればよい。

## 1 3 格支配の前置詞

◇ 3 格支配の前置詞には、多義的なものが多い。

◇ **aus** は *out of* と考えてよいが *from* と重複し、「～のなか (内部) から」。例えば、「～出身」という場合には **aus** を使う (英語では *from*)。

\* 下記の **von** との使い分けが必要。

◇ **bei** は、

- ・「～の近く」という *beside* の意味。
- ・「～のところに」という空間的場所。
- ・「～の際」という時点。

◇ **mit** は *with* と考えてよい。

- ・「～とともに」。
- ・「～でもって」。こちらは道具、乗物に対して用いる。

◇ **nach** は、

- ・「～へ」という移動の目的地。

\* 下記の **zu** とは使い分けが必要。移動の目的地を表す各種表現の使い分けについては、本資料 S. 4 を参照。

- ・「～のあとで」という *after* の意味。
- ・「～によれば」という典拠 (*according to*)。この場合、**nach** は後置するのが普通。

meiner Meinung nach 私の考えによれば

\* これはよく使う熟語。覚えておく与会話の際に役に立つ。

◇ **seit** は *since* (「～以来」) と考えてよい。ただし、Übung 1 の小問 4 の注にある通り、ドイツ語の時制では「継続」は現在形で表すので、seit は完了形とともに用いるとは限らない。

\* もちろん、英語では継続は現在完了で表す。since も現在完了の文で用いるのが普通。

◇ **von** は、

- ・「～から」という *from* の意味。

\* **aus** との使い分けが必要。こちらには「内部から」の含意はない。

- ・「～の」という所有 (*of*) の意味。

\* もちろん、「～の」の意味は 2 格でも示すことができる。

das Gepäck eines Ausländers = das Gepäck von einem Ausländer

(2 格)

(3 格)

- ・「～について」という *about* の意味。

\* ほか、受動態で動作主体を示す「～によって」の意味 (英語では *by*) がある。これは受動を学ぶときに扱う。

◇ **zu** (～へ) は *to* と考えてよい。

\* **nach** とは使い分けが必要。移動の目的地を表す各種表現の使い分けについては、本資料 S. 4 を参照。

◇ ほか、**außer** (～のほかに、*except*)、**gegenüber** (～の向かいに、*across*)、**entgegen** (～に向かって、*against*) などがある。**entgegen** および **gegenüber** は、「～によれば」の意味の **nach** と同じく後置するのが普通。

\* 正確に言えば「後置詞」だが、便宜的に前置詞の一つとして扱う。

## 2 4 格支配の前置詞 (S. 23)

- ◇ **durch** (～を**通**って) は *through* と考えてよい。
- ◇ **für** (～**の**ために) は *for* と考えてよい。
- ◇ **gegen** (～に**逆**らって) は *against* と考えてよい。
- ◇ **ohne** (～**なし**に) は *without* と考えてよい。
- ◇ **um** (～の**まわり**に) は *around* と考えてよい。  
\* um には「～時」、gegen には「～時ごろ」の意味もある。これらは時刻の表現としてのちに学習する (教科書 S. 37)。
- ◇ **entlang** (～に**沿**って) は *along* と考えてよい。entgegen や gegenüber 同様に後置。

## 3 3・4 格支配の前置詞

動作が行われる**位置**を表す場合 : 3 格と

動作や移動の**方向**や**目的地**を表す場合 : 4 格と

- ◇ 3・4 格支配の前置詞は、動作が行われる位置を表す場合には 3 格と、動作や移動の方向や目的地を表す場合には 4 格と用いる。

Ich arbeite in der Bibliothek. (in+3 格=位置)

私は図書館で仕事をしている。

\* in の基本的意味は「～のなか」だが、「～のなか**に**おいて」と単なる位置を表すときは in+3 格を用いる。

Ich gehe in die Bibliothek. (in+4 格=方向)

私は図書館へ行く。

\* 一方、「～のなか**に**向かって」と移動の方向や目的地を表すときは、in+4 格を用いる。

\*\* 移動の目的地を示すほかの表現は、本資料 S. 4 に整理してある。

Das Auto steht vor dem Hotel.

その自動車はホテルの前に停まっている。(vor+3 格=位置)

Er fährt vor das Hotel.

彼はホテルの前に (自動車で) 乗りつける。(vor+4 格=方向)

\* ほかの 3・4 格支配の前置詞についても、in の場合と同様に考えればよい。

- ◇ 3・4 格支配の前置詞の意味は、ほぼ、

- ・ **an** (～に**接**して) は *at*。
- ・ **auf** (～の**う**え) は *on*。
- ・ **hinter** (～の**う**しろ) は *behind*。
- ・ **in** (～の**なか**) は *in*。
- ・ **neben** (～の**隣**) は *next to*。
- ・ **über** (～の**上**方、～を**越**えて) は *over, above, beyond*。
- ・ **unter** (～の**下**) は *under*。
- ・ **vor** (～の**前**) は *before, in front of*。
- ・ **zwischen** (～の**あい**だ) は *between*。

- ◇ über には「～**につ**いて」の意味もあり (von と並んで英語の *about* に相当)、非常によく用いられる。その場合は必ず 4 格とともに用いる。

## ■ 前置詞と定冠詞の融合形

- ◇ ある前置詞のあと特定の定冠詞が来る場合、融合形が使われることがある。重要なのは、
- ・3格支配: bei+dem → **beim**、von+dem → **vom**、zu+dem → **zum**、zu+der → **zur**
  - ・4格支配: durch+das → **durchs**
  - ・3・4格支配の前置詞+3格: an+dem → **am**、in+dem → **im**
  - ・3・4格支配の前置詞+4格: an+das → **ans**、in+das → **ins**
- \* fürs、ums、aufsなども教科書に掲載されているものの、定型表現などを除いて用いない場合が多い。
- ◇ これら前置詞と定冠詞の融合形は、用いなければ完全に間違いというわけではない。それでも、なるべく用いた方がドイツ語らしい表現にはなる。
- \* 試験などでは融合形にしなくとも○とするが、できれば使ってほしくもある。

## ■ 移動の目的地を示す各種表現

大雑把に言えば、

- ・目的地が地名: **nach+3格**もしくは**in+4格**
- ・それ以外: **zu+3格**もしくは**in+4格**

- ◇ 目的地が地名(固有名詞)かつ無冠詞の場合: nach+3格またはin+4格。  
nach Deutschland = in Deutschland (ドイツへ)、nach Berlin = in Berlin (ベルリンへ)
- ◇ 目的地が冠詞のつく地名(特定の国名など)の場合: in+4格。  
in die Schweiz (スイスへ)、in die USA / Vereinigten Staaten (合衆国へ)  
\* 授業第4回「名詞の性別の見分け方」も参照。
- ◇ 目的地が人間、用事の場合: zu+3格。  
zu Hans (ハンスのところへ)、zum Arzt (医師へ)
- ◇ 目的地がなかに入れる建物の場合: zu+3格またはin+4格。  
ins Büro = zum Büro (オフィスへ)、ins Restaurant = zum Restaurant (レストランへ)、  
ins Kino = zum Kino (映画館へ)、in die Bibliothek = zur Bibliothek (図書館へ)、  
in die Schule = zur Schule  
\* 以上がこの授業で知っておくべきもの。以下は中級編であり、現時点では覚えなくともよい。
- ◇ 目的地が開かれた施設の場合: auf+4格。  
auf das Rathaus (市役所へ)、auf die Post (郵便局へ)、auf den Marktplatz (マルクト広場へ)  
\* Rathaus (市役所/町村役場)やPost (郵便局)は建物だが、「公共」施設と考える。ただし、これらを用事と考えて zum Rathaus や zur Post とするのも可。  
\*\* 教科書S.22には、「催し」には zu+3格を用いる、とあるが、auf+4格も多い。auf die Party (パーティーへ)、auf das Fest (祭りへ)、auf den Ball (舞踏会へ)など。
- ◇ 目的地が海、川、湖の場合: an+4格。  
ans Meer (海へ)、an den Rhein (ライン川へ)、an den Strand (海岸へ)  
\* 通常は「海/川/湖に行く」は水中に入るのではなく、「海辺/川辺/湖畔に行く」意味なので。  
\*\* Rhein (ライン川)は男性名詞。ドイツ語では山や川にも文法上の性別がある。

**練習問題の補足**

**Übung 3 (S. 23)**

5. sitzen は「座っている」という静止状態だけを表す (英語の *sit* と異なる点)。「座る」という動作を表すためには *sich setzen* という再帰動詞がある (教科書 S. 53 で扱う)。

6. kreisen (*vi.* 旋回する) は、確かに移動を表す動詞ではあるが、über \_\_\_\_\_ (die Stadt)はその移動の目的地ではないことを考えて解答するとよい。

**Übung 4 (S. 24)**

2. hängen には自動詞 (立てかけられている、ぶら下がっている) と他動詞 (～を立てかける、～を吊り下げる) の2つの用法がある。英語の *hang* と同じ。

**参考 前置詞早見表**

	前置詞	+n 格	意味
3 格 支配	aus	+3 格	～のなかから、～出身 (= <i>from</i> )
	außer	+3 格	～のほかに、～以外に (= <i>except</i> )
	bei	+3 格	～の近く (= <i>beside</i> ) ～のところに ～の際 融合形： <b>beim</b> ← bei dem
	entgegen	+3 格	【後置】～に向かって (= <i>against</i> )
	gegenüber	+3 格	【後置】～の向かいに (= <i>across</i> )
	mit	+3 格	～とともに (= <i>with</i> ) ～でもって (= <i>with</i> ) * 手段、乗物を表す。
	nach	+3 格	～へ (= <i>to</i> ) * zu との使い分けに注意。 (⇒本資料 S. 4) ～のあとで (= <i>after</i> ) 【後置】～によれば (= <i>according to</i> )
	seit	+3 格	～以来 (= <i>since</i> )
	von	+3 格	～から (= <i>from</i> ) ～の (= <i>of</i> ) * von+3 格 = 2 格と考えてよい。 ～について (= <i>about</i> ) ～によって (= 受動態における <i>by</i> ) * 下記 durch とは使い分けあり。 (⇒教科書 S. 55) 融合形： <b>vom</b> ← von dem
	zu	+3 格	～へ (= <i>to</i> ) * nach との使い分けに注意。 (⇒本資料 S. 4) 融合形： <b>zum</b> ← zu dem / <b>zur</b> ← zu der

	前置詞	+n 格	意味
4 格 支配	durch	+4 格	～を通って (= <i>through</i> ) ～によって (= 受動態における <i>by</i> ) * 上記 von とは使い分けあり。 (⇒教科書 S. 55) 融合形：durchs ← durch das
	entlang	+4 格	【後置】～に沿って (= <i>along</i> )
	für	+4 格	～のために (= <i>for</i> )
	gegen	+4 格	～に逆らって (= <i>against</i> ) ○時×分ごろに (⇒教科書 S. 37)
	ohne	+4 格	～なしに (= <i>without</i> )
	um	+4 格	～のまわりに (= <i>around</i> ) ○時×分に (⇒教科書 S. 37)
3 ・ 4 格 支配	an	+3 格	～に接するところで (= <i>at</i> ) ～日に (⇒教科書 S. 68)                     融合形：am ← an dem
		+4 格	～に接するところに向かって                     融合形：ans ← an das
	auf	+3 格	～のうえで (= <i>on</i> )
		+4 格	～のうえに向かって
	hinter	+3 格	～のうしろで (= <i>behind</i> )
		+4 格	～のうしろに向かって
	in	+3 格	～のなかで (= <i>in</i> ) ～月に (⇒教科書 S. 68)                     融合形：im ← in dem
		+4 格	～のなかに向かって                     融合形：ins ← in das
	neben	+3 格	～の隣で (= <i>next to</i> )
		+4 格	～の隣に向かって
	über	+3 格	～の上方で (= <i>over, above</i> )
		+4 格	～の上方に向かって、～を越えて (= <i>beyond</i> )
			～について (= <i>about</i> )
	unter	+3 格	～の下で (= <i>under</i> )
		+4 格	～の下に向かって
	vor	+3 格	～の前で (= <i>before, in front of</i> )
		+4 格	～の前に向かって
	zwischen	+3 格	～のあいだで (= <i>between</i> )
+4 格		～のあいだに向かって	

\* 2 格支配の前置詞は用法が単純であるため、ここでは省略。

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり)：http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/